

## 令和5年度第3回狛江市立公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 令和5年6月27日（火）午後6時30分～8時
- 2 場 所 中央公民館 第4会議室
- 3 出席者 斎藤謙一委員長、長岡智寿子委員、岩瀬敏郎委員、内海貴美委員、天野泰子委員、伊勢亀慎司委員、伊東達夫委員、細谷明美委員
- 事務局（浅井信治公民館長、瀧川直樹副主幹（兼）事業係長、高橋公平主任）
- 4 欠席者 都築完副委員長
- 5 傍聴者 0名
- 6 資料 資料1 公民館事業評価シート（西河原映画会）  
資料2 公民館事業評価シート（子ども・若者事業）等

### 7 議 題

#### <議題>

##### 1 開会

社会教育実習生の紹介

##### 2 報告事項

事務局

狛江市民センター改修基本設計及び狛江市新図書館整備基本設計に係る市民説明会の実施状況について説明

##### 3 審議事項

（1）公民館事業評価（西河原映画会）について

事務局

資料1に基づき説明

委員長

先ほど、事務局より前回からの修正点について説明があった。西河原映画会の事業評価シートはこの内容でよろしいか。

委員一同  
異議なし

(2) 公民館事業評価(子ども・若者事業)について  
事務局  
資料2に基づき説明

委員長  
子ども・若者事業は、講座の内容が前年度と異なるものが多いので、評価の判断が難しい。

委員  
現役大学生が企画した講座の参加者数が少なかった理由を知りたい。

事務局  
学生に関心が高い内容ではあるが、周知や申込の期間が短かったことが主な原因と考えられる。大学生に直接声を掛けてみる等、もっと違う方法もあったと思う。

委員  
実施日が夏休みの期間中であったということも、多少は関係があるのではないか。

委員  
広報こまえには、どれくらい前から掲載しているのか。

事務局  
目安として、1か月前には広報こまえに掲載するようにしている。

委員  
現役大学生が企画した講座には、ほとんど関係者しか集まらなかったため、周知方法の工夫や、場所を踏まえたニーズ調査を十分に行う必要があるといった意見が出た。市内の中学校や高校にチラシを直接配ったり、参加していただける層を調査したりすれば良かったのではないか。

委員  
これまで公民館の講座の内容をあまり知らなかったが、アンケートの回答結果を見ると、とても良い企画が実施されていると思う。

委員

実施する時期や対象を考えて、計画的に講座を行えば良い。大学生を集めるのはハードルが高いので、高校生や専門学校生、就活浪人生等も対象に加えても良い。

#### 委員

来年度以降への発展を考えた上で、時期や活動内容、講師との連携等を評価すべきである。事業の対象となる子ども達に、公民館として何をしてあげたいのか、どのようになって欲しいかを考えた方が良い。

#### 委員

小学生を抱える親子を対象に、7月に木工教室を実施する意味はあると思う。夏休みの宿題や自由研究の役に立つということで参加する方も多いのではないかと。こうしたことを企画の段階で検討していくことが重要である。

#### 委員

マナー講座については、1年間かけて教えている支援機関もある。そういった場合は、マナー以前となるコミュニケーションの問題から取り組んでいる。人とうまく付き合えない生徒がすごく多いので、「人とうまく付き合える方法」や、「会話の仕方」等、違う角度から講座を考えてみるのも良いと思う。

周知の方法についても、中学生以上に来て欲しいのであれば、中学生以上であれば誰でも参加できることを強調した方が良い。また、講座のタイトルについても、「上手な話し方」や「言い換えの方法」等、堅苦しくないキャッチコピーで宣伝しないと人は集まらない。

#### 事務局

東京都公民館連絡協議会の職員部会で、チラシのキャッチコピーを考える研修会が開催される予定である。チラシの内容によって申込者数が変わって来るため、他市の公民館でもキャッチコピーの作成には苦戦しており、今回そういった研修会のテーマとなった。

#### 委員長

年度を通じた全体の計画や工程が必要かもしれない。年度全体を考えて、常に次のシーズンのことを考えておくような仕組み作りが大切である。また、講座自体も周知する期間も含めて、3か月前にはある程度内容を決めておく必要がある。

#### 委員

確かに、個々の講座というよりも、子ども・若者事業の全体のあり方について、計画を見直した方が良い。今年度の状況を教えていただきたい。

#### 事務局

現時点では、夏休みに行う小学生向けとして、数学芸人の方を講師とした講座や、昨年度の「夏休み・子ども中高生スペース」で行ったウクライナのエッグアートの講座をクリスマスのシーズンにできないかを検討している。

#### 委員長

事業全体を考える際は、時期に応じた企画ができていくかという視点が重要となる。

#### 事務局

年度初めとなる4月、5月に事業を実施する場合は、前年度に企画を考えて動き出す必要があるため、実際は秋から冬にかけて講座が集中する傾向にある。昨年度から、年間の事業のスケジュールを職員全員で作成、共有するようになり、実施時期がバランス良くなるよう気を付けているところである。

#### 委員

全体のスケジュールの設定については、事業評価シートの「今後の課題」や「総合評価」で触れても良い。

#### 委員

时期的なものもあると思うが、もしかしたら講座の開催時間が大学生、高校生には向いていないかもしれない。これまでに、公民館として夜間に講座を実施したことはあるか。

#### 事務局

市制施行50周年記念として、令和2年度に「親子天文教室」という天体に関する講座を夜間に実施したことがある。最近では、成人学習事業として「所作台ワークショップ」を夜間に実施した。夜間の場合、安全面の観点で子どもだけだと参加しにくいということから、それ以外はあまり行っていない。

#### 委員長

高校生、大学生であれば夜間でも問題ないのではないかと。狛江市立公民館40周年記念事業の際に「天文教室」の運営に関わらせてもらったが、急遽実施が決まり周知期間が短かったものの、人気がありすぐに定員が埋まることとなった。

#### 委員

大学生と連携しながら講座を実施したことは非常に良い取り組みだと思うが、なぜ大学生と連携しないといけないのか明確に説明できるか。

#### 委員長

昨年度の審議会で答申した「公民館における新しい様式のあり方について」で、市民協働や官学協働、官民協働といった多様な実施形態で事業に取り組むこ

とが求められているためである。

#### 委員

現役大学生が考える企画自体は非常に良いと思う。以前参加した東京都公民館連絡協議会の新任向け研修会でも、公民館では中高生、大学生の集まりが悪いという話を聞いた。実際に課題として感じている大学生と相談しながら、色々なものやっ払いこうという取組みは非常に高く評価をしたい。ただ、企画それ自体の評価であるならば素晴らしいと思うが、実施結果の評価から見ると、定員に満たなかった等の反省点が出てくるので、＜周知＞の面では少し評価が厳しくなる。

#### 委員長

今までは、人が多く参加すれば良い事業、そうでなければ悪い事業と単純に評価していた。この事業評価シートが策定されてからは、中身の内容や結果を含めて様々な角度から評価できるようになったので、そこは非常に良いことだと思う。

#### 委員

職員の方だけにお任せするのではなく、市民大学のように企画から市民の方に参加していただくのも選択肢としてある。市役所の職員はジョブローテーションで配属されるので社会教育に関ったことのない職員が来た場合は、特に最初は苦労すると思う。

#### 事務局

職員部会で他市の職員に聞いたことがあるが、企画を検討する委員会や職員会議、館長と各職員が相談して決める等、企画の決め方は、公民館によって様々である。狛江市の場合は、担当職員が周りの職員や上司と相談して、どのような講座を実施するかを決めている。

#### 委員長

相談できる相手がいるかどうかで変わってくる。市民大学のように、市民が検討できるチームを作って、年間の計画まで作ってしまうのも一つの方法だと思う。専門にしている分野であれば、意見も出てきやすい。

#### 事務局

公民館としては、現状として、事業評価を行うこと自体が事業の改善につながっていると考えているので、まずはこれを継続させていきたいところである。

#### 委員長

＜環境＞の評価項目について、事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面とが適正だったかということであるが、事務局としてB評価を付けた理由を教えていた

だきたい。

事務局

利用者とのトラブルや、新型コロナのクラスターの発生等がなく予定どおり実施できたと思うので、B評価とした。

委員

予定どおり実施するのは当然のことだと考える。

事務局

他にも、人員体制や設備面が整って、円滑に実施できたという面もある。

委員長

それであれば、コロナ対策や参加者とのトラブルだけではなく、人員体制や設備面にも触れるよう記載を見直してほしい。アンケートの回答結果の自由記述欄を見るともう少し当日の雰囲気分かるのではないか。私はA評価で良いと考える。

委員長

次に<満足度>であるが、確かに参加者からのアンケートの集計結果を見ると、満足度は高いように感じるため、A評価でも良いと考える。

委員

「歌って、踊ってミュージカルを体験しよう！」の参加者からのアンケート結果を見ると「楽しかった」の回答が多く見られた。体験型の講座は、満足度が高い印象を受ける。

委員

確かに、そういう内容は他のアンケートからも読み取れる。

委員長

公民館には、利用団体として活動する市民と、公民館事業に参加する市民の両方が存在し、双方のニーズに応える必要がある。昔は講座の参加者が自主グループ化した例があったが、コロナ禍になってから活動ができなくなったり、高齢化して解散したりしたグループも多い。30～40年前、公民館をよく利用していた方も、今では70～80歳代になってしまっている。

委員長

次に<達成度>についてだが、これは評価が難しい。「身近な題材を取り上げ、ものを作り、遊び、学びの中で喜び、創造を高める」ことが事業目的となっているので、これを達成できたのかという視点で考えることが重要である。

#### 事務局

令和4年度は、公民館事業の広がりを持たせていくことを狙いとして、新たに大学生との連携や、民間企業との連携を行った。参加者数は想定より少ない事業もあったが、過去の審議会の中でも、大学生との連携や、若者、現役世代の取り込みについて答申をいただいております、そうしたところが少しは実現できたと考えます。

#### 委員長

子どもの頃に公民館を利用した人は、社会人になってからも公民館を利用すると以前から言われている。そういう意味では、子ども・若者事業の参加者は、将来公民館に足を運んでくれる可能性が高くなったと言える。

#### 事務局

利用者の層や協力体制を広げるといふ公民館の目的は達成できた。大学や民間企業との新しい協働事業の取組みとして、そこを評価いただければと思う。また、事業目的にある「仲間づくり」の視点からも、例えば、参加者がグループを作って、公民館で今後活動していただくこともあり得る。

#### 委員長

確かに<達成度>は、ある程度の成果がでてしていると判断できるので、B評価で良いと思う。

次に<発展性>についてであるが、この独自評価項目は、これまでも委員から触れられており、<企画・計画性>といった評価項目に変えたいと思うがいかがか。

#### 委員一同

異議なし

#### 委員長

事務局としては、<企画・計画性>の評価項目について、どのように評価するか。

#### 事務局

公民館全体というよりは、各職員で講座を検討するケースが多いため、企画・計画性という観点からはC評価が妥当ではないかと考える。

#### 委員長

令和5年度は、8割以上が新規の講座であった。新しく開拓していることを考えると、C評価は厳しいように思う。評価はB評価としつつも、「今後の課題」で企画・計画性について改善すべき点を書くことにしたい。また、新規の講座に

については実施理由も明確に答えられるかがポイントである。

#### 委員

企画・計画性を考えたとして、事業が下期に集中するということは民間企業でもよくあることなので、年間通して実施できていることは評価しても良い。

#### 委員長

職員の異動や事務分担の変更もあるので4月、5月に行うとしたら、計画して引き継いでいく必要がある。社会情勢等の変化もあるので、計画仕切れない部分もある。他に「今後の課題」として挙げるものはあるか。

#### 委員

できれば、各企画のターゲットや目的を明確にさせていただくような旨の追記をお願いしたい。

#### 委員長

細かいニーズ調査が必要で、小さい時から公民館に足を運んでもらう機会をつくることは、公民館の将来のために必要である。公民館の現状の運営方針は、どうなっているか。

#### 事務局

年度ごとの方針については、部の方針、課の方針として定めている。長期的には狛江市立公民館基本方針と公民館事業方針を昭和52年に立てている。「公民館は、人と人とを結ぶ役割を担いつつ、さらに、地域住民の生活課題への取組みを中心とした学習や文化レクリエーション活動に対し、施設設備の提供や相談、学習機会や資料の提供を通して、生活に根差した活動を進めます」というのが、公民館の基本方針である。

#### 委員長

基本方針を館内に掲示してはどうか。公民館は何のためにあるのかという疑問を聞いたことがある。図書館は本が置いてある。博物館は物が展示してある。公民館は、部屋があるだけで何をするのが知られていない面もある。

#### 事務局

市民憲章が市制施行50周年のタイミングに合わせて変更されているので、公民館の方針も今後時代に合わせた変更が必要かもしれない。

#### 委員

学校の視点から、こういった子ども・若者事業の講座はどのように映るか。

#### 委員

中学校では、一部の教科の時間が増えて、ものづくり等を行う時間が少なくなっており、やらせてあげたいが、その時間がないのが現状である。表現やプログラミングといった新しい指導内容も入ってきている。学校と公民館事業との方向性は一致しているが、学校外で行うところまでは広がっていない。

また、周知の方法についても検討が必要だと思う。子どもがやりたい気持ちと、親がやらせたい気持ちが一貫すると実際の申し込みにつながりやすい。就活や社会人のマナーを教える時間は、あまり学校では機会がなく需要もあると思うので、もっとPRすれば自然と参加者は集まると思う。

#### 委員長

今までは、公民館、学校、児童館等の機関があまり連携していなかったが、今後はもっと連携して行ってほしい。

#### 委員

中学校や狛江高校にチラシを配布してもらってはどうか。

#### 事務局

「夏休み子ども中高生スペース」等の広く参加してほしい事業については、チラシを配布している。

#### 委員長

学校にも年間行事がある。児童館でも様々なイベントを行っている。そうしたことも考慮して実施時期を決めて欲しい。

#### 委員

数学や英語などの科目の時間が増えてきて、その分美術、技術、家庭科等の実技の時間が少なくなってくる。技術にもプログラミングといった新しい分野も入ってきており、限られた時間の中でできることが少なくなっている。

#### 委員

そういった学校が提供できない部分を公民館で補えば良い。

#### 委員

中学生や高校生といった世代は、興味がないことだと、全く関心を示さない。勤めている展示施設に社会科見学で来てくれるが、興味のある子は見ってくれるのに対し、それ以外の子はもう半ば強制的に見させられている感じである。興味があれば、頭には入らない。そういう意味でも、子ども・若者世代へのニーズ調査は大事だと思う。

#### 委員

せっかく、大学や民間企業と連携するのであれば、講師側のアンケートをとってみるのも良い方法である。

委員

国分寺市では市民が入った企画委員会の様なものを実施している。

委員長

市民も意見が出せれば良い。職員の負担も少し軽くなると思う。

委員

委員会を立ち上げたことにより、その事務や運営を担う職員の負担となってしまう場合もあるので、望ましいとは言い切れない。

委員長

それでは、子ども・若者事業の評価をまとめさせていただく。

<周知>

公民館B 公運審B 全体B

<環境>

公民館B 公運審A 全体A

<満足度>

公民館A 公運審A 全体A

<達成度>

公民館B 公運審B 全体B

<発展性>→<計画・企画性>

公民館C 公運審B 全体B

※<発展性>は、<計画性・企画性>に評価項目を変更

※公民館と公運審の意見が違う場合は公運審の意見を全体の意見とする。

次回開催日：令和5年7月25日（火）午後6時30分～

会 場：中央公民館 第四会議室